

これからの英語教育について

7月9日（水）

近年、英語教育の重要性が叫ばれています。新たな英語教育のための改革とその背景として、グローバル化の進展の中での英語力の重要性が以下のように述べられています。急速なグローバル化の進展の中で、一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になり、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要です。現在、学校で学ぶ児童生徒が卒業後に社会で活躍するであろう 2050 年頃には、日本は、多文化・多言語・多民族の人たちが協調と競争する国際的な環境の中にあることが予想され、そうした中で、様々な社会的・職業的な場面において、外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えることが想定されます。現行の学習指導要領の基本方針においても、小中高を通じて、コミュニケーション能力を育成し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能をバランスよく育成することを目指しています。基本的考え方や概要については、次の通りです。



○小中高を通じて、コミュニケーション能力を育成。言語や文化に対する理解を深める。積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能をバランスよく育成する。

○指導語彙を充実（中高を通じて 2,200 語から 3,000 語に）また、第 2 期教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）による英語力の目標は以下の通りです。

①中学校卒業段階：初歩的な英語を聞いたり読んだりして話し手や書き手の意向などを理解したり、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話したり書いたりすることができる。（英検であれば 3 級程度以上）

②高等学校卒業段階：英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。（英検であれば準 2 級～2 級程度以上）益々重要度を増す英語教育ですが、授業改善や ALT の効果的な活用により、英語の授業の充実を図り、3 年生卒業時には 50%以上が英語検定 3 級以上を取得するよう取り組みます。

※例えば市内中学生のスピーチコンテストや 3 年生英検チャレンジ事業の取り組みなどもそうです。